

締切
6/20
(金)

金婚夫婦(昭和40年中に結婚)大募集!!

金婚写真、撮影します

●申込方法: 福祉課へ電話でお申し込み下さい。
(問) 真室川町福祉課 ☎ 62-3436

郷土の英傑 鮭延秀綱物語 ⑧

八 最上家の武将として活躍

天正十三(一五八五)年、最上義光の旗本となつた鮭延秀綱は、最上軍の武将として活躍の場を広げていった。幾たびかの合戦で手柄を立てた秀綱は、その後山形に家屋敷(現大手門パルズ辺り)を与えられ、最上の武将として重きを増していったといわれている。

この頃の秀綱の活躍を記しているものに「奥羽永慶軍記」(戸部一敢著)がある。有屋合戦を始めとする、仙北小野寺氏との戦いで数多くの戦果を挙げていることが記されている。ただしこの本は軍記特有の表現が多く、史実としての価値は薄いといわれている。それでも秀綱の戦いを多く取り上げていることは、それだけ魅力のある武将だったことの現れであろう。

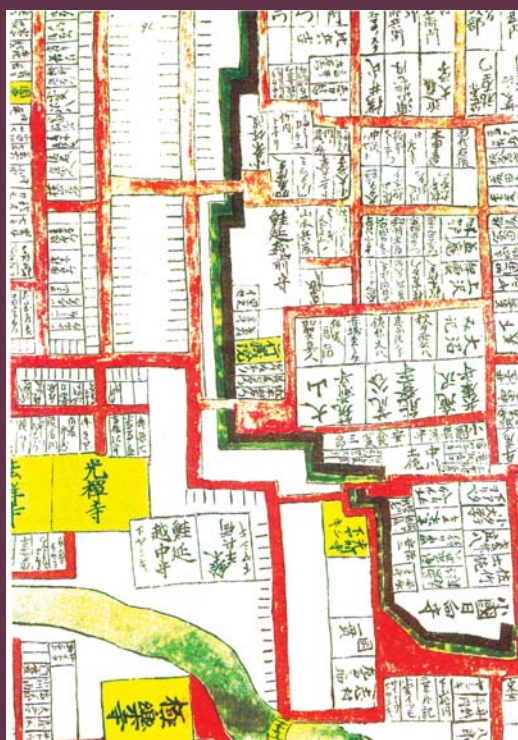
一度庄内を手に入れた最上義光であつたが、天正十六年、「十五里ヶ原の合戦」と呼ばれる戦いで、本庄繁長(現村上市を所領)率いる上杉軍に敗れ奪われてしまった。失った庄内を奪還すべき戦いで、最上軍の先陣を任されたのは鮭延秀綱であつた。家臣がまとめた「秀綱言行録」には次のように記されている。

「出羽守(義光)は知行高の者が数多くいたのをさしおいて、典膳(秀綱)一人に軍勢千五百人ほど付けて『先陣として庄内に進軍し状況を伝

える。その後で軍勢を出そう。』と命令された。典膳は軍勢を引き連れ、庄内北目に出陣、内出川(現赤川か)をはさんで本庄繁長三千の軍勢と対峙した。小競り合いがあり上杉軍に一人の死者(鮭延の家臣及位図書が討ち取る)がでたが、本格的な戦いがないうまま両軍引き上げた。倍の軍勢を要しながら決戦を避けた本庄繁長に典膳軍はどう映つたのであろうか。後に繁長が、この戦いにおける最上の大将が鮭延典膳と知り『かねてから聞いていた有名な武将だったのか。』と申されたそうである。」

上杉軍の猛将として知られる本庄繁長にしても一置いた秀綱の実力は、最上軍の中でも一級の武将であつたに違いない。

(真室川町歴史研究会)



最上家臣屋敷図

町民の入賞結果

● 1位 佐井 祐希 (天平池)	● 2位 山子 聖 (天向)	● 2位 小野 香 (安久士)	● 2位 藤子 摩 (東町1)	● 6位 柴田 悟・結仁 (東町2)	● 5位 佐藤 零 (山屋)	● 4位 杉原 杏 (安久士)	● 3位 佐藤 歩 (大系平)	● 2位 小座 翔 (系平)	● 4位 佐藤 虎 (山宮)	● 3位 佐藤 蓮 (山宮)	● 小學生男子 3km 藤 龍 (山宮)
------------------	----------------	-----------------	-----------------	--------------------	----------------	-----------------	-----------------	----------------	----------------	----------------	----------------------



5月4日(日)、梅の里マラソン大会が開催され、大会史上2番目に多い346名が参加しました。今年には天候にも恵まれ、梅・桜が満開の真室川路を多くのランナーが駆け抜けました。

第27回梅の里マラソン大会

表紙の紹介



「広報まわろがわ」は再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。

